

# ひかり

2025年12月号

第739号



Christmas

日本聖公会 三光教会

〒142-0064 東京都品川区旗の台 6-22-24

電話 03(3781)2554

FAX 03(3781)2544

<http://nssk.org/tokyo/church/sanko/stephen/>

創立 救主降誕 1912年(大正元年)11月2日

言は肉となって、わたしたちの間に宿られた。わたしたちはその栄光を見た。それは父の独り子としての栄光であって、恵みと真理とに満ちていた。

(ヨハネによる福音書 1:14)

## 神の恵みの先行性

司祭

シモン・ペテロ 上田憲明

何年も前に、「罪と赦しの関係」についてお話ししたいということとで、あるお医者さんとお話ししたことがある。その方は、随分勉強なさったようで御自分の見解を述べられて、私自身もそういう方向で考えればいいだろうな、と思ったし、そう言ったので、それで終わったと思うていたのだが、その後暫くして「それで、上田先生の見解は？」と再度尋ねられた。そんなことがあったものだから、ある礼拝の中で説教中、最近一般の方もご存知の讃美歌「Amazing Grace」について話をした時に、はたと気付いた。この歌は、まさに、罪と赦しと、それに先立つ神の恵みを歌っている歌だと。

今は曲として有名だが、むしろ曲が付けられる前に「Amazing Grace」という歌詞があり、それは1773年1月1日の祈禱会で始めて用いられた。ご存じの方もあると思

うが、この歌の作詞者、英国聖公会の牧師ジョン・ニュートンは、牧師になる前は、奴隷貿易に携わっていた。それだけでなく、随分ずさんだ生活をし、神やキリストについても、ひどい言葉でののしったりしていた。ある航海で、ものすごい嵐に遭い、高波が襲った瞬間、自分の目の前で、数人の船員が波にさらわれ、一瞬にして命を落とした。次の波が来る前に彼は、祈りながら、自分や他の仲間が波にさらわれないようにロープで体を船に括り付けた。嵐が過ぎた時に、彼ははたと考え込んでしまった。さっき、咄嗟に神様に祈っていた自分について。ここから彼の回心が始まった。よく、それから彼の人生が劇的に変わったかのように語られるが、実際には、それからもしばらく奴隷貿易に携わっていた。

目に見える転機は、好きだったポリーという女性と結婚するところから始まる。ジョンは、長い間、航海に出てポリーと離れて生活するのが、段々耐えられなくなりました。船に乗ること自体を止めてしまったのである。よく言われるように直ぐに回心があったのではない

く、奴隷貿易から足を洗って良かったと思ったこと、回心が嵐の時から始まっていたことに気付いていたのは、随分後になってからである。

彼は周囲の反対もあったり、ある聖職には面と向かって断られたりもしたのだが、牧師になることを目指し、やがて聖公会の司祭になる。オールネイというさほど大きくない村で、彼は機会あるごとに自分の体験に根ざした説教をすることに。回心の体験を、かりやすい言葉で。その体験を、詩の形でまとめたものの一つが、この「Amazing Grace」である。説教の中で、自分のひどい生活、罪を彼は何度も語る。そして、そこからの赦しが与えられたことを証する。それを繰り返している内に見えてきたものは、ただ自分が気付かなかっただけで、ずっと始めから、神様の恵みが自分の人生の中にあったということ。そういうことに気付くと、さらに罪の自覚が深まり、さらに神の赦しが身にしみる。振り返ってみれば、罪の真つ只中にある時にも、神の恵みが絶えずあったことに気付くようになるといえることが起こっていく。

「驚くほどの恵み」は私たちの人生の中にも起こっている。そのことに私たちも気づいていけますように。

( [http://en.wikipedia.org/wiki/Amazing\\_Grace](http://en.wikipedia.org/wiki/Amazing_Grace) を参考にしました )

## 12月～2月の予定

### ◆12月

21日(日) 降臨節第4主日  
22日(月) 使徒聖トマス日  
24日(水) 降臨日前夕(クリスマス・イヴ)  
25日(木) 降臨日  
26日(金) 最初の殉教者聖ステパノ日  
27日(土) 福音記者使徒聖ヨハネ日  
28日(日) 降臨後第1主日  
29日(月) 聖なる幼子の日

### ◆2026年1月

1日(木) 主イエス命名の日  
4日(日) 降臨後第2主日  
5日(月) 1月逝去者記念礼拝  
6日(火) 顕現日  
11日(日) 顕現後第1主日・主イエス洗礼の日  
13日(火) 主教ヒラリー  
17日(土) 修院長アントニオ  
18日(日) 顕現後第2主日  
20日(火) 殉教者主教フアビアン  
21日(水) 殉教者おとめアグネス  
22日(木) 殉教者執事ビンセント  
25日(日) 顕現後第3主日  
26日(月) 使徒聖パウロ回心日  
27日(火) 主教教会博士ヨハネ・クリソストム  
28日(水) 司祭教会博士トマス・アクィナス

### ◆2月

1日(日) 顕現後第4主日  
2日(月) 被献日  
3日(火) 2月逝去者記念礼拝  
5日(木) ヨーロッパの殉教者  
8日(日) 日本の殉教者  
11日(水) 顕現後第5主日  
15日(日) 日本聖公会組織成立記念日  
18日(水) 大斎節前主日  
22日(日) 大斎節第1主日  
23日(月) 殉教者主教ポリカール  
24日(火) 使徒聖マッテヤ日

## クリスマス

### 礼拝案内



第I聖餐式 12月24日(水) 22時

(深夜のミサ)

第II聖餐式 12月25日(木) 7時半

(暁のミサ)

第III聖餐式 12月25日(木) 10時半

(日中のミサ)

主イエス命名の日(新年礼拝)

第I聖餐式 1月1日(水) 7時半

第II聖餐式 1月1日(水) 10時半



## 第147回定期教区会報告

藤田 新一郎

△2026年度▽  
教会委員選挙  
開票報告(得票順)

・大久保郁子  
・牟田 実  
・橋本周二郎  
・藤田新一郎  
・青野悦人  
・浜口 俊  
・藤田葉二  
・村井美帆  
次点  
・黒川文子  
・森 明子  
・五十嵐真知子

※なお、これに加えて2026年度の教会委員会にて推薦者3名を決定する予定です。

11月22日(土)に聖アンデレホールで開催された東京教区第147回定期教区会の報告です。

会議に先立ちまして高橋主教の開会演説があり、その後議事に移り、まず教区各委員会および関係団体からの2026年度の活動方針を中心とした報告・説明があり、そののち議案の審議採決に入りしました。また、これらに並行して日本聖公会総会代議員選挙が行われました。

議案は次の8議案でしたが、そのうち6号議案を除く7議案が、いずれも規則で定められた得票を得て可決されました。

1 2026年度教区収支予算案承認の件

2 教区新設を承認する件

3 合併契約書承認の件

4 日本聖公会東日本教区「教区会細則」を承認する件

5 日本聖公会東日本教区「常置委員会選挙実施要綱」を承認する件

6 「北関東教区・東京教区 宣教協働・新教区設立推進に関する覚書」を改定する件(提案者からの申し出により取下げ)

7 教区事務所総主事任命承認の件

8 監事指名承認の件

簡単に補足しますが、2号議案は東京教区として北関東教区の合併を承認する議案で、日本聖公会法規(以下、「法規」)の定めによる決議です。また、4号議案5号議案は新教区の第1区会とそこで行なわれる常置委員選挙に関する定めをあらかじめ決めておくものです。いっぽう、3号議案は宗教法人の合併に必要な宗教法人法(以下、「法律」)の定めによる手続きです。

1号議案、8号議案については、「新教区に移行するのになぜ」と思われる方もいらっしゃるかもしれませんが、法規上の合併スケジュールと法律上の合併スケジュールは一致させることができず、むしろ相互に影響を与えながら交互に手続きを進めることから、「宗教法人日本聖公会東京教区」は暫く存続することになり、そのために法律の定めによって審議。議決されました。

なお、7号議案により前澤弘之氏が教区事務所総主事に、また清水慶三郎氏、中井修氏が教区監事に指名され、選挙により下条裕章司祭、中川英樹司祭、黒澤佳子氏

植松功氏の4名が日本聖公会代議員に選出されています。

### 新教区設立議案可決される

藤田 新一郎

2025年11月22日と24日の両日は日本聖公会にとって歴史的な日として記録されるでしょう。22日に開催された東京教区第147回定期教区会において、24日に開催された北関東教区第93回定期教区会において両教区の合併議案が可決されました。

歴史を少し遡りますが、2020年の日本聖公会総会において、宣教体制の強化と教区の再編のために「宣教協働区」と「協働委員会」が設けられることになり、北海道、東北、北関東、東京の4教区は「東日本宣教協働区」として協働の歩みを進めることになりました。また同じ総会では教区主教を選出せず、管理主教、協働委員会のもとで、教区再編(分割・合併等)を目指す「伝道教区」制度も可決

され、北関東教区は2021年3月で退職される広田主教の後任を選ばずこの伝道教区になる道を選びました。

そして2021年3月、北関東教区・東京教区両教区主教、両教区常置委員会連名で「北関東教区・東京教区これからの歩みに向けて」を發布し、「今後、両教区が、東日本宣教協働区の中にあつて、草の根の交流、相互理解の深化、様々な分野における協働を推進しながら、5年後を目途に新しい教区を新設する、という目標を目指し、協議・検討していく」ことになったのです。

そこからの5年は、コロナ禍と重なったこともあり、交流、相互理解が思うように進まなかったかもしれません。それでも小さな交流、地道な話し合いを重ね、今年に入ってから3回の「新教区設立ミーティング」が開催され、11月には“念願の”合同礼拝を行うことで両教区の結びつきは確実に深まり、新教区設立に向けての機運も少しずつ高まっていたと感じていました。

そして、長く日本聖公会の課題として認識されながら、“開かずの扉”とされていた教区再編の

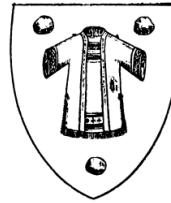
扉がついに開かれたのです。合併議案が可決されたことが確認された瞬間、東京教区会の議場に沸き起こった拍手は、私がこれまで経験した拍手の中でも最も喜びに溢れており、教区会代議員の多くが新教区設立を前向きに、希望を持って賛意を示したことをはつきりと感じました。

今後、2026年2月23日に開催される予定の日本聖公会臨時総会で両教区の合併が正式に承認され、続いて5月上旬に新教区の第1回教区会が開催されることで、新教区は正式にスタートします。また、並行して宗教法人としての東京教区、北関東教区の合併手続きも進められます。

とはいえ、大変なのはこれからで、合併に必要な手続きは始まったばかりです。これまで異なる歴史を歩んできた両教区の組織、諸規則、特に財政関連の課題すり合わせるにはさらなる困難とそれを乗り越える労力が必要になります。

議案説明において常置委員長の中川英樹司祭がおっしゃった言葉お借りしますが、教区というのは主教や常置委員会、教区事務所関係者を指すのではなく、そこに

含まれる全ての教会、礼拝堂とそこに集う聖職・信徒から成り立ちます。三光教会の皆様にも、一人一人が当事者として新しい教区設立の歩みに参加することをお願いいたします。



マーマレード作りのご協力を  
お願いいたします。

今年も教会の夏みかんがたくさん実りました。（この夏みかんの木は「かもめ工房」に通所していた大辻直樹さんが亡くなった時にご家族から大辻さんが働いて貯めていたお金を教会へと献金頂き、当時の社会委員会でカタチのあるものということで記念樹として購入した夏みかんの木です。）この夏みかんを使って、マーマレードを作ります。ほろ苦くて美味しい

ジャム作りへのお手伝いをお願い致します。

1月17日(土) 10時から夏みかんの収穫作業。

1月23日(金) 10時から12時から刻み作業。午後はフタのカバー作り。

1月24日(土) 9時30分から煮込みとビン詰め作業を行います。詳しいことは、社会宣教委員会へご確認下さい。

なお、作業にご参加出来ないという方でも、砂糖の献品を受付けております。皆さまご協力を宜しくお願い致します。



（前庭の夏みかんの木）

### 教会のお掃除にご協力を

聖堂内外のお掃除の協力者が少なくなりました。土曜日の午前10時から1時間程ご奉仕ください。ご協力いただける方は直接参加してください。

### はじめて教会にいらした方へ

礼拝様式に馴れない方は椅子にお掛けになったままで結構です。

- 礼拝中の献金は、信施金として伝道のために献げられるものです。金額は自由です。
- わからない点は隣の席の者か案内係にお聞さください。

### 礼拝のご案内

#### ■主日礼拝

午前 7:30 聖餐式  
午前 10:00 ステパノ会  
(日曜学校)礼拝  
午前 10:30 聖餐式  
午後 4:00 夕の礼拝

#### ■平日礼拝

毎朝 6:30 から  
月、水、金は朝の礼拝、  
火、木、土は聖餐式

日本聖公会 三光教会 教会報「ひかり」 2025年12月号(第739号)

発行者: 牧師 上田 憲明 編集・印刷: 三光教会広報委員会